

[月刊] 1988年6月18日第三種郵便物認可

トマ喰い虫

〒150 東京都渋谷区渋谷2-5-9 パル青山502
トマ喰い虫社

☎03(498)6095 044(63)5101
FAX. 044(63)9907

No. 54
90.4.20
定価 100円

月刊反トマホーク通信改題

NAN (北大西洋ネットワーク) と PCDS (太平洋軍備撤廃運動) の「双子のリーフレット」より。



NETWORKING THE OCEANS

パピアパピアスの横須賀 母港を止めよう!

リムパック：海の戦争ゲーム／パプア・ニューギニア報告
アメリカ西海岸の旅／横須賀・佐世保・呉から

[発行] トマホークの配備を許すな！ 全国運動

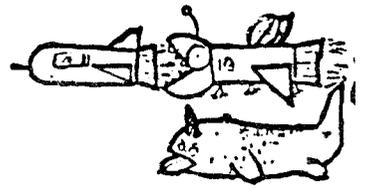
- | | | |
|--------------|--------------|-------|
| ●維持会員 (月間会費) | ●参加会員 (月間会費) | ●通信会員 |
| 団体 1口 2000円 | 団体 1口 1000円 | 年間 1口 |
| 個人 1口 1000円 | 個人 1口 500円 | 2000円 |

あなたも仲間にも！ (会費は本誌購読料を含みます)



4.22
クル・ヨウスカ
ムンパツク
母港を止めろ!

横須賀での集会



トマ喰い虫とは、神奈川県横須賀市の久里浜中学の生徒が考え出したトマホークを食べてしまう生き物です。今、世界中で繁殖している益虫なのだ!

4/21~29

(次号で詳報)

海の軍備撤廃 国際行動週間

世界12国で44行動

リムパツク

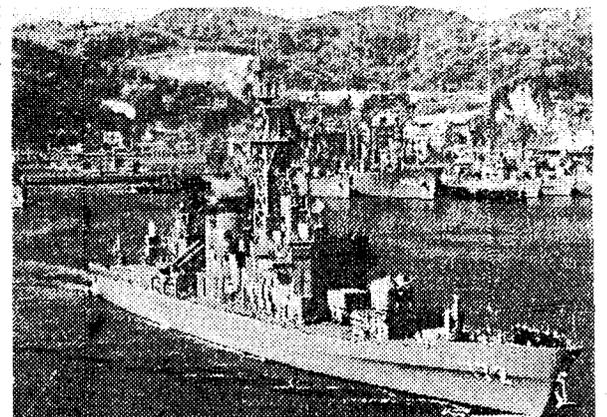
四月七日、環太平洋合同軍事演習・リムパツク90に参加する海上自衛隊の水上艦艇部隊が横須賀を出港していった。護衛艦「はるな」など九隻。潜水艦一隻とP3C対潜哨戒機も前後して出発した。

リムパツクは米海軍が主催し二年に一度米西海岸からハワイにかけての海域で行われる軍事演習。各国の艦隊が敵側と味方側の二手に別れて、実戦的な「戦争ゲーム」を展開する。通算六回目の今回の演習期間は四月九日から六月一日までと発表されている(四月七日「朝日」夕刊)。

参加国は、日、米、オーストラリア、カナダに今年初参加の韓国が加わる。参加部隊の規模は艦艇五十五隻以上、航空機二〇〇機、人員は五万人である。米海軍からは、横須賀母港化予定の空母「インディペンデンス」やトマホーク搭載戦艦「ミズーリー」も参加する。

ヨーロッパでの冷戦終結が宣言され、世界が軍縮と緊張緩和へと大きく動きつつある今、

緊張緩和と軍縮に逆らう
海の戦争ゲーム、現在進行中



横須賀を出港する自衛隊艦隊

この軍事的デモンストレーションをいったいだれが歓迎するだろうか。「西側の一員」に名乗りをあげるために初めて二隻の駆逐艦を派遣する韓国の人々だろうか。みずからの聖地を爆撃で破壊されてきた、ハワイ先住民の人々だろうか。あるいは、戦争放棄の憲法のもとで、公然とした海外派遣を行うまでに「成長」してしまった軍隊を持つ日本の私たちがだろうか。
日本から遠く離れた所で行われるリムパツク。この戦争ゲームが生み出すものは何もない。あるのは破壊だけだ。(田巻一彦)

ある。

一九八〇年の米海軍との合意書により、ハワイ文化の保全のために活動する地域グループ「プロテクト・カホオラウエ・オハナ」が島の合法的な監督者となった。同グループの主要な目的の一つは、カホオラウエ島の軍事使用を中止させることである。砲撃中止の要求はハワイ州議会、州知事、マウイ郡長および郡議会、ホノルル市議会、さらには世界中の平和、独立、先住民運動団体からも寄せられている。

「土地は生きている、我々の体の一部である。それが砲撃によって物理的に傷つけられるとき、我々は痛みを感じる」(ノア・エメット・アルリ博士、プロテクト・カホオラウエ・オハナ)。

●プロテクト・カホオラウエ・オハナ: P.O. Box 62012, Honolulu, Hawaii 96839

島に艦砲射撃! ハワイ・カホオラウエ

リムパツクで

世界の軍縮の流れに真つ向から逆らって打ち出された空母インディペンデンスの横須賀母港化計画。町ぐるみの反対運動でこの計画をストップしよう！と、「非核市民宣言運動ヨコスカ」は、パンフレットを発行した。インディペンデンスと交替に退役するミッドウェーの横須賀母港十七年にさまざまな角度から光を当て、その「犯罪」を徹底的に暴く内容。たとえば、艦載機の墜落の恐怖、NLP(夜間離発着訓練)の被害、核疑惑、海洋戦略の危険性、そして池子の住宅問題…。

空母インディペンデンスの母港

町ぐるみの反対運動めざしパンフレット発行

●横須賀

A5版 32ページ



「問い合わせ」非核市民宣言運動・ヨコスカ 横須賀市本町3-14 山本ビル2F ☎0468(25)0157

「当時『たかが空母一隻』といわれて強行されたミッドウェーの母港がそんなに生易しいものではなかったことも、私たちは十分に知りました。ミッドウェーでもインディペンデンスでも、空母の母港そのものが私達の暮らしとはなじまない。ミッドウェーの母港17年を検証することでそのことを確認したい。」(「はじめに」より)。

市民に語りかける平易な文体。しかも内容はもちろん万人向け。これをよめば母港が「たかが空母一隻」でも「横須賀のこと」でもありえないことが納得できるだろう。ぜひ一読を！
「非核市民宣言運動・ヨコスカ」では、パンフ第二弾「空母の母港・100人に聞きました」(仮題)も準備中である。(た)

市長が発言

田中正純
佐世保市議会議員(佐世保軍研会
社会党)

「核持ち込みに疑惑」

「ついに勝負あった！」と思わず壇上で叫びたくなる衝動をかううじて押さえた。市長が「市長としては、状況証拠的な見地から見ると、核が持ち込まれていない」と、決定づけるのはいかなるものかという考えを抱かざるを得ない」と述べたのである。

一九九〇年三月定例会一般質問での答弁は、昨年五月空母タイコンデロガ号水爆機水没事故発覚以来、四度にわたる議会での真相追及のささやかな到達点であった。

これまで市長は、日本には国是である「非核三原則」がありこの原則は日米関係の信頼の証しであり今日でも厳格に尊重されていると信じている。と、文部省の教科書的な答弁を繰り返して来たのである。

佐世保港にはこれまで、原子力潜水艦の度重なる寄港をはじめ、空母エンタープライズ、カールビンソン、戦艦ニュージャージー、加

えて核任務承認済み艦の入港数は枚挙にいとまがない程であった。

それでも市長は、「非核三原則」の熱烈な支持者であり、それが完全に尊重されているという点では少数派に属する「信者」であった。

その「確固たる論拠」(？)がゆらぎ始めたのは昨年九月定例会でのことである。

平和団体の協力のもとに入手したタイコンデロガ号「航海日誌」。この核持ち込みを立証し、検証可能なものにした資料は、市長をして外務省を通じ真相を解明する努力を約束せるにいたった。

しかし、外務省にこの真相を解明する意志は当初からあろうはずがない。引き続きの解明要求に外務省は、「米政府に紹介中」という答弁の繰り返しに終始した。

米政府は昨年十二月二十七日、ついに本性を表す回答を日本政府によこしたのである。

それは「(タ号事故真相解明の)これ以上の議論は軍の運用上の政策を危うくし、国家安全保障上の利益に悪影響を与える」というもので、核持ち込み疑惑解消に対する事実上の打ち切り宣言であった。

米政府の意図は、何の疑いの余地もなく、核持ち込みの形を変えた肯定論と見るべきが至当であろう。

市長は、冒頭のように核持ち込みに疑惑を表明した後さらに次のような批判をも付言した。「(不十分な)米政府の回答を受け入れるのは、(タ号の)事故の詳細、経緯に適切に答えたものとは言えず、市民は納得できない」。基地の増強を積極的に歓迎し、自らも核抑止論者と任じ、非核都市宣言の推進は反米運動と論破した市長から初めて発せられた日・米政府への批判であった。

これまで対立点のみが浮き彫りにされた議論が中心だっただけに、ささやかな共有点に接した本会議の論議は、これからの運動にいささかなりとも教訓をもたらすのではないかと感じている。

貴重な資料を提供してくださった「トマホーク」の配備を許すな！全国運動」のご協力に感謝します。(九〇・四・一記)

市民が止めた 弾薬海上保管計画

本紙第五十号で報告があったように、米陸軍は、昨年、秋月弾薬庫の弾薬の一部を呉湾の海上に保管することを計画していた。しかし、この計画は市民運動の敏速な対応と、自治体議会での反対決議などの結果、昨年末までに中止に追い込まれた。「ピースリンク・広島・呉・岩国」は計画が報道されるとすぐに、海上保管反対の署名活動を開始、この署名には短期間のうちに七〇〇〇を超える賛同が寄せられた。また、同運動は議会、自治体政府への要請行動を精力的に展開した。

「やれば、止められる。正当な論理で民衆が立ち上がれば、事態は動くという貴重な体験をした」と、ピース・リンクの仲間。

三月末には、タイコンデロガ事件の真相究明を求める非核自治体キャラバン、四月には海の軍備撤廃国際共同行動と、広島の間際たちは元氣一杯動いている。(編集部)

文化的にはむしろソロモン諸島に近いところですが。この島で、昨年およそ七十人が内戦で死亡しました。

この内戦は、伝統的な土地所有者たちがオーストラリアのCRAという企業が経営する世界最大規模の露店掘り銅山を封鎖したこと端を発しました。土地所有者たちは、環境破壊や伝来の土地への悪影響を理由にこの銅山に反対してきました。PNG政府はこの反対運動を軍隊を投入して鎮圧しようとし、銅山付近の村の何千人もの住民を、強制移住させたりもしました。

オーストラリア政府はこの軍事行動のために、PNG軍の訓練やヘリコプターの供与などの援助を行っています。つい最近の情報は、オーストラリアが供与したヘリコプターによる機銃掃射で約二十人が射殺されています。

先月(九十年一月)、オーストラリア政府はPNG政府に対して「暴動」を鎮圧するために、さらに軍事援助を行うと約束しました。来年には軍事援助額を四一〇〇万ドルから五三〇〇万ドルに増額するといっています。

この援助の中には、マナス島の海軍基地建設計画のための資金も含まれています。マナスというところは水深が非常に深く、第二次世界大戦中には日本軍や米軍によって使用さ

太平洋の島々をおおう大国の影③

パプア・ニューギニア
ブーゲンビル島の内戦
に介入するオーストラリア

前号まで

- ①ベラウ/フィジー No 52
- ②カナキー(ニューカレドニア) No 53

フィジーの軍事クーデター、ベラウにおける非核憲法への圧力、そしてカナキー(ニューカレドニア)における独立運動内部の分裂：と困難な要因はたしかにあります。しかしこれらの国々では非同盟、非核への気運は確固として存在しています。

その一例をあげましょう。フランス軍にバック・アップされたフィジー現政権の統治は表面上は安定しているように見えますが、水面下には大きな反対世論があります。昨年十一月、フィジー労働党党首で先のクーデターで政権を追われたババンドラ博士がガンで亡くなりました。その葬儀には、全人口六十万のうち実に四万から五万人が参列したとの

パシフィック・ニューズ・ブレイク
編集者/オーストラリア



切妻飾り (バブアニューギニア)
連続セミナー「非核太平洋へ」
(二月一八日、東京)での発
から(まとめ、編集部)。

ことです。野党への支持が極めて高いことを象徴する出来事ではないでしょうか。

状況は確かに困難ですが、この数年のうちこれらの国々では、労働党も独立運動も、非核、独立の要求をさらに強めていくにちがいない。

問題は、アメリカ、フランス、日本などの大国がこれらの動きにどう対処していくのかということでしょう。

これまでのところ、大国が太平洋の小さな国々と形作ってきた関係は、おおむね貿易や経済援助を通じてのものでした。そのような中で、パプアニューギニア(以下PNGと略)のブーゲンビル島でおこっている武力紛争はもつとも不穏なものと言ってよいのではないのでしょうか。

ブーゲンビル島はPNGの本島から少し離れた小さな島で、PNGに属してはいませんが、基地を他の場所に移動せざるを得なくなるかもしれない。そこで、戦力をこれらの地域に分散させることを選択肢の一つとしているのです。

さらに重要なことは、アメリカは「『良い先例』の脅威」に頭を悩ませているということ。すなわち、ニカラグア、バヌアツなど小さいけれども、非同盟をきっぱりと宣言している国々の「脅威」です。大国にとってのこの「脅威」は、さまざまな困難を孕みながらも、太平洋各地で拡大していくにちがいない。

PNGもベラウもフィジーも、いずれも戦略的重要地域からは離れたところにあります。しかし、アメリカは、二年後にフィリピンの

核艦船の基地化
ねらうアメリカ

新刊パンフレット

生命の海へ

非核・独立の太平洋ベーシック

- ニック・マクレラン
ロベティ・セニウリ
オーエン・ウィルクス
- 話題の国々
バヌアツ/フィジー/
東チモール/ベラウ/
ニューゼーランド/
カナキー/タヒチ
- ファクト・シート
南洋庁/日本占領/基地/
核実験/海洋投棄/
ODA/笹川財団/
遠洋漁業/NFIP/PCDS
- 資料
非核憲法/非核法/
非核地帯条約/
非核独立太平洋憲章/
倉成ドクリン
- 伝説
地図・統計



読んで・見て・知る 太平洋

編集 ● 「生命の海へ」
編集委員会
発行 ● トマホークの配備
を許すな! 全国運動
定価 ● 600円
(10部以上500円)



PCDSの 国際事務所 ヨコハマ

新事務所は、「トマ喰い虫社分室」と同じ屋根の下です。人や便りの出入りもにぎやかになって、反核平和運動の国際化もいよいよ本格化した感じ。一緒にやりましょう!



ピース・ウエディング
in ATSUGI

3月25日午後、一組の新婚カップルが米海軍厚木基地近くの公園で誕生。80人あまりの友人たちの祝福を受け、ゲート前でワルツを踊る。このあと二人は非暴力直接行動による基地への侵入に挑戦、夕刻に成功し、警察の留置所に3日間拘留された。仙田典子さんとビル・マトラナウスキーさん。平和運動で出会った二人は、愛と非暴力の実践で新しい人生に旅立った。

1990.4.20 神奈川新聞 太平洋軍備撤廃運動

太平洋の軍備撤廃に反対する草の根運動のネットワーク「太平洋軍備撤廃運動」(PCDS)の国際事務所がオーストラリアのメルボルンから横浜に移転、活動を開始した。アジア太平洋地域の軍縮と非核化を促すため、運動の活性化を図りたいとしている。

横浜に事務所移転

去秋やニュージーランドの非核政策などに焦点を当てて活動するため、メルボルンに置かれていた。しかし、世界の軍縮傾向の中でアジア太平洋の軍縮が遅れ、特に日本を中心とする地域に軍縮と非核化の機運を盛り上げる目的で、日本への移転が決まった。

初活動は22日横須賀で

初活動は22日横須賀で、宮教育会館での講演「米の時代は自衛隊はどこへ行く?」講師は軍事評論家の藤井治夫さんと平和行進が中心。PCDS国際事務所は横浜市中区北區箕輪町三ツツ、電話044-53101。



アメリカ西海岸の旅(V 最終回) 基地と環境 その2 梅林宏道

(前号まで)

I テーマとして定着した北太平洋の軍縮と、コンテロガ事件の国際性

II 「アメリカの湖」に面する基地群

III 基地と環境

エベレットのNEPA訴訟

ウイドビー島のタッチ・アンド・ゴー

西部諸州法律財団

軍の環境調査

プレシディオ陸軍基地閉鎖

西部諸州法律財団

サンフランシスコ湾における反母港化運動の中でも、環境面からの反対が一つの中心的な論拠になっていた。サンフランシスコでは弁護士やこの方面のリーダーとなっている活動家によって実状を知る計画を立てた。

どの国でも弁護士は忙しい。日本を出る前に私の希望を伝えて西部諸州法律財団のアンディ・リヒターマン弁護士と二時間ほど会うアポイントメントを取っておいたのは賢明であった。

この法律事務所は、サンフランシスコ周辺の反核、反基地、環境保護などの運動の法律上の諸問題について協力している、小さいが

貴重な専門家組織である。リヒターマンはその事務所の中心弁護士であり、母港反対運動を伝える新聞記事で、私はその名前を知っていた。

パートと呼ばれる地下鉄に乗ってオークランドの中心部におりた。サンフランシスコ地震で陥没したあのベイ・ブリッジの下の海底を走っている地下鉄である。事務所の建物を見つげるのに時間がかかることを予測して早めに友人宅を出たため、午前十時の約束の時間より早く事務所についた。

女性所長であるジャッキー・カバツソーが既に部屋にきていた。彼女と初対面の会話を交わしているうちに、この事務所の人たちが文字通り活動家として自認していることが判ってきた。弁護士事務所にありがちな特権的な態度は全く無く、むしろ私の方が本当に活動的な人間であるかどうかを品定めされている感じであった。彼女自身、非暴力直接行動の実践者であった。

私は、横須賀のNEPA訴訟を念頭において、聴きたい問題点を書き出して用意していたのであるが、アンディ・リヒターマンはそれを遮るようにして、自分の哲学を開陳し始めた。永年の経験で培った体系を示しておきたかったのだろう。姿勢を正す思いで聴いたが、テープレコーダーを持っていなかった

会計報告

(90. 3. 21~4. 23)

[収入]

○前月からの繰越	34,801
経常繰越	284,801
借入金繰越	△250,000
○今月の収入	80,150
会費収入	42,000
内	
維持個人	0
維持個人	15,000
参加個人	0
参加個人	0
通信会	27,000
カンパ収入	30,000
行動収入	0
資料収入	3,500
反核ホットライン収入	2,650
アンケート調査収入	2,000

[支出]

●今月の支出	259,462
家賃	30,000
水道光熱費	8,760
電話代	23,699
郵送費	39,231
文具代	16,200
印刷費	97,752
行動費	0
資料経費	0
反核ホットライン経費	0
アンケート調査経費	42,100
郵便振替等手数料	1,720
●次月への繰越	△144,511
経常繰越	105,489
借入金繰越	△250,000

のは残念であった。要点は次のようなものであった。

軍の環境調査

NEPAは地球環境の保護に最大の関心をおいた法律であり、強制力はない。勝つことを目指すよりも、世論に影響を与えることが出来る点に主要な意味を見いだすべきである。実り多い運動の成果を得るためには、時間がかかって行政内部に友人を作りその人たちが真剣に動くように働きかけるのがよい。環境保護庁(EPA)の中にも海外基地のことに関心を持っている人たちがいる。

サンフランシスコ湾の基地の環境への影響を年代的に追ってみると、1950年代に行なわれた埋め立て工事に端を発している。その後、サンドブラストなど造船活動による有害産業廃棄物、石油タンクの漏洩事故などがあつた。

全国的に高まる世論の中で、八〇年代になつて米国防省は、全軍に対して基地の環境面からの点検を命じた。海軍は、NACIP(海軍施設汚染源の評価と管理)プログラムを発足させた。このプログラムが海外基地に対しても行なわれた可能性がある。一九八六

んでいた。アンディもジャッキーも具体的な協力を約束してくれた。日本に帰つたら系統的にこの方面の活動に取り組み必要があることを痛感し、将来の抱負で元気が湧いてきた。

プレシディオ陸軍基地閉鎖

軍備管理調査センター(ARCC)のサウル・ブルーム所長に会うように奨めてくれたのは、ジャクソン・テイビス博士であった。このグループは、母港反対運動の情報センター的な役割を果たしていた。また、市長や議会も含めた地域運動戦略を立てる役割を果たし

ているようであった。彼は個性の強いリーダーであり、「自分のやり方」をもっていた。サンフランシスコ湾からすべての基地を追い出してみせる、と彼は断言した。彼の言うとおり戦艦ミズーリ水上打撃団の母港が粉砕されたのみならず、ゴールデンゲイトの入口をふさいでいる巨大なプレシディオ陸軍基地の閉鎖も決定された。サンフランシスコ湾を母港にしている原子力空母の将来についても、彼は楽観的な見通しをもっていた。エンタープライズは、オーバーホールのためにバージニア州のノーフォークに移動した後、そのままそこを母港にする可能性がある。カールビンソンも、プレマートンに移る説がある、と彼は言った。

八七年にこれらのプログラムは、所謂スーパーファンド・プログラムに統合された。環境の側面から基地や軍縮の問題に取り組みむとき、情報公開制度を駆使することが決定的に重要である。基地周辺の市民が、直接生活環境に影響する情報を得るという必要性があるし、汚染が広範囲に及んだり類似の環境問題が他の基地で生じていることに気付くヒントになったりする。軍の持っている環境調査データを入手することが重要な出発点になる。

* * *

アンディの話の中で何度もスーパーファンドの話が出たので一言付け加えておきたい。スーパーファンドとは、一九八〇年に成立した総合的環境対策・補償・責任制度法(CERCLA)の呼び名である。この法律によって、化学工業、石油産業などから特別の税を徴収し、連邦政府がこの資金で直接に大規模環境汚染に対処する体制を作った。私企業の環境破壊のみならず、軍など連邦政府活動によつてもたらされた環境破壊を、スーパーファンドを使って復元、阻止する活動が、米国では新しい領域の仕事になつている。

* * *

西部諸州法律財団を訪問して得たものは、今後の日本の運動にとつて多くのヒントを含



サンフランシスコに近いコンコード海軍兵器廠。1987年9月1日、エル・サルバドルへの弾薬輸送に抗議する座り込みの中で、一人の市民が列車に轢かれて両足を失った。その時以来、市民の座り込みは24時間、1日も休まずに続いている。(記事: 第52号)

これらの運動展開の中で、環境問題が紛れもなく中心課題になつている。

プレシディオ基地の閉鎖問題が、彼らにとつて最も新しいテーマであつた。というのは閉鎖された後、基地を平和目的に使うとすると、基地内を汚染している有害物質除去のために莫大な費用がかかる。その費用負担を誰が負うべきかをめぐって強力な市民運動が必要になつていたのである。この費用が地元にもたらすかもしれない財政負担のみならず、返還後の地元へのさまざまな財政負担を計算して地元出身の民主党議員たちは強力なプレシディオ基地閉鎖反対運動を展開していたほどである。ペンタゴンが、戦艦ミズーリの母港中止に引き続いてプレシディオ基地閉鎖を打ち出したのは、軍の方針に反対して来た彼女たちを懲らしめるためであるとの説が流れている。

もちろん、この本質はそんなところにはない。軍がプレシディオを占有し続けている限り、汚染は基地内に留まらず、湾地域全体に及ぶに違いないのである。基地閉鎖は、環境保護を促進するとサウル・ブルームは言った。

基地と環境を結びつけた運動は比較的新しい。しかし、単に方便として環境問題が使われているのではないことを私たちは銘記すべ

この東京湾で核事故が起こらないなどと誰が断言できるだろうか。梅村宏道著「核された核事故」と、横須賀でのその結末を予測した「デビス・レポート」(1988年)の読後に走った戦慄が、演劇界の新しい旗手岡安伸治に筆をとらせた。注目の書き下ろし、ここに東京・横浜公演。

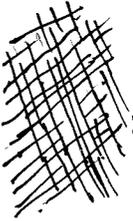
5/15~21 下北沢
ザ・スズナリ
5/26~27 横浜
相鉄本多劇場

笑ってデビス・レポート

作・演出◆岡安伸治 **世にげのいち座**
出 演◆里村孝雄
伊藤イサム 03(316)9496

平日 p.m.7:00開演
土曜日 p.m.2:00, 7:00 開演
日曜日 p.m.2:00のみ

前売■2500円
当日■2800円
高校生以下
前売■1800円
当日■2000円



デビス・レポート とマ喰い虫の出会い

きであろう。反核、軍事介入反対(とくに中米)、環境保護等の論理が、人によって強弱の違いはあれ、全体として軍備撤廃運動の論理として融合していつていることを、私は感じた。

このように漠然と体で感じ取ることが出来たものが、おそらく私にとってアメリカ西海岸で得た最大の収穫だったのではないだろうか。

(完)

「編集後記」
横須賀での「海の軍備撤廃国際共同行動」の準備などに追われて、発行が十日ほどおくられてしまいました。また、「反核ホットライン」よりも、編集スタッフの手違いで掲載できませんでした。おわびします。新緑のあざやかな季節、町を吹き抜ける風のように、この島にも平和への息吹を生みだしたいですね。

(た)

「投稿歓迎!」締切り毎月10日/字数は2000字までをメドに

求ム! スタッフ、助っ人

●編集から印刷、発送まで「トマ喰い虫」はすべて手作りです。ミニコミ作りに興味ある人、平和運動の新しい情報に触れてみたい人、イラストやデザインをやってみたい人、とにかく何かやってみようと思ってるあなた! 大歓迎します。

●発送を手伝ってくれませんか? 毎月20日直後の日曜日、トマ喰い虫社分室(東横線日吉駅下車044-63-5101)で。次回は

5月20日(日)午後2時から

次号から再生紙を使う予定です

月刊トマ喰い虫 第五十四号
一九九〇年四月二十日発行(通巻五十五号)

*発行 トマホークの配備を許すな! 全国運動
〒一五〇 東京都渋谷区渋谷一丁五十一丸
バル青山五〇二 トマ喰い虫社
〇三(四九八)六〇九五
〇四(六三)五一〇一
FAX〇四(六三)九九〇七
郵便振替 東京六一三六一四八

*編集 トマ喰い虫編集委員会
*定価 一〇〇円(通信会員年間二〇〇〇円)